

こばやし



小林てつや

NEWSレポート

埼玉県議会議員



子どもにツケをまわさない

親と子どもが望む社会実現のために



「オレンジリボン 命は人の和の中に」代表

大崎佐智恵さん

×

小林てつや



の

シリーズ VOL.3

対談

年間で約60人。これは虐待で命を落とす子どもの数です。人権侵害やストレスから虐待に走るリスクが高い子育て初期の親たちに、地域でサポートできないかと、ひとりのママ・大崎佐智恵さんの呼びかけで児童虐待防止「オレンジリボン」運動がこの地で立ち上がりました。未来を担う子どもたちのために惜しみなく力を注ぐ市民活動のリーダー的存在の大崎さんと対談しました。

【大崎佐智恵さんプロフィール】

昭和38年7月熊谷市生まれ 47歳
「オレンジリボン 命は人の和の中に」代表、くまがやピンクリボンの会役員。介護職員を経て、ライフワークは子育て支援とがん撲滅運動。熊谷市久下在住。5人家族、二男の母。

小林 11月から1ヶ月間は、児童虐待防止推進月間になりますね。県北でオレンジリボン活動をお始めになられたとか。

大崎 2004年9月、栃木県小山市で2人の幼い兄弟が虐待の末、橋の上から川に投げ入れられて亡くなる事件がおきました。その事件をきっかけに2006年小山市の「カンガルーOYAMA」という団体が二度とこのような事件が起こらないようにという願いをこめて、子ども虐待防止を目指してオレンジリボン運動が始まりました。この県北、熊谷地域も例外ではありません。今年の9月25日に熊谷SNS（熊谷ソーシャルネットワーキングサービス）の中で「オレンジリボン 命は人の和の中に」を立ち上げました。

小林 大崎さんご自身の子育てを通し、今の社会にどんなことをお感じになられていますか？

大崎 実は娘を小学校1年生の時に小児がんで亡くしました。生きてくても生きられない命、生きてほしい命が

あるのに、殺してしまう命があるならうちの子にちょうだい、と悲しいニュースを見るたびに思っていました。子どもを自分の所有物のように扱う身勝手な母親を責めている自分がいました。けれど、子育て支援に6年間関わり、思い通りにならない子どもに悩んでいるのは皆同じだと感じ、母親の気持ちに寄り添うようになりました。

小林 子どもは泣くことが仕事、成長の過程で必要なこと。けれど、公の場ではそれを冷ややかに見る人もいます。温かく見守る社会作りが求められますね。

大崎 そうですね。例えば電車の中で「子どもを泣かすことはいけないこと」とインプットされている母親は、自分が「悪い母親」と見られているのではないかと非常に気になる。降りたい駅ではないのに、居たたまれなくて降りてしまう。そんな時、周りの人がひと声かけてあげると、ずっと楽になる。そんな小さな声掛けをして欲しいと思います。



シリーズ VOL.3

対談

大崎佐智恵さん
×
小林てつや



小林 埼玉県内には児童養護施設が4か所ありますが、近年の傾向は家庭内暴力により保護される児童が増えているといえますね。

私も子どもが3人いますが、自論として学校にあがるまでに善悪をきっちり叩き込むことを心がけました。言訳や理屈でなく悪いことをしたら叩く。悪は痛いものとして厳しく育てました。

大崎 そうでしたか。埼玉県で推進している子育て中の親等を対象として子育てに必要な知識や技術を学び「親が親として育ち、力をつける」ための学習プログラムがありますが、その指導員の資格を持っています。

その中で学んだことの一つに、母性も父性も本能ではなく、幼児期の体験から育まれるものということ。異年齢の子ども同士遊びの中で近所の子の世話を焼いたり、小さな命（動物や生物）との触れ合いの中で母性や父性が芽生えるのです。

小林 私の場合、親と同居でしたから子育てには身近な手助けがありがたかったですね。そんな中で家族の絆も育ったような気がします。

大崎 父親と母親では役回りが違いますよね。けれど、それにこだわらない。手が足りた、助け合う家族がいることはありがたいですね。

一昔前はそれと同時にコミュニティも賑やかでしたね。地域の子どもたちが徒党を組んで遊べば、たくさん兄弟の輪ができて、それを見守る近所のおばさんやおじさんの目があり、おぎなえていた部分がありました。



小林 今から6年前に埼玉県は「防犯の町づくり条例」を作りました。ちょうど神戸サカキバラ事件が起きた年です。これは犯罪を減らすため声掛け運動をしようというもので、通学する子どもたちへ地域のお年寄りが「おはよう」「おかえり」と声掛ける。この活動がお年寄りの生きがいとなり、熊谷市の犯罪率が46%も減りました。地域のコミュニティづくりにも大いに役立ちました。



こどもプール祭り 別府沼公園にて

あそびの学校 ネットモールにて



小林 もうひとつ、埼玉県で「いじめ防止条例」を作りたいかったですね。ですが、昨年度は「いじめの少ない埼玉県」という決議だけで条例までは漕ぎ付きませんでした。残念です。

大崎 いじめで命を落とす子も、いじめる子も、地区の中にいる子どもたちとして、大人が関わり考える問題として扱ってほしいと思います。

小林 久下地区で「たんぼぼ」という子育てサークルをやっていたとか。現在の熊谷市内の子育てサークルの状況を教えてください。

大崎 はい。熊谷市初のママさんサークルは「わんぱくキッズ」さんで20年前に出来ました。8年過ぎた頃に最大になり、市内に8クラス述べ300人の親子が参加していたそうです。それから個々の児童館や公民館に集まってくる地元ママさんたちが自ら作ったサークルがふつふつと出来、子育て支援に対しての希望やさまざまな不自由さを話せる場が持てました。それをひとつの大きなネットワークに繋げることもできました。卒業ママさんと現役ママさんのサークルが抱える共通の問題は、次期リーダーが育たないことです。

小林 子育て支援センターはどれくらい存在しますか？

大崎 市内には16か所あります。熊谷市は「子育て応援宣言タウン」の認定を求め動き始めていますので年々増えています。

ですが、未就園児のママさんたちにいかに情報を伝えるか、地域で孤立しているママさんをいかに救えるかが課題でもあります。

小林 そうですね、むしろそういった場に出てこれられない親、出られない状況にいる親が心配ですね。

大崎 門戸を閉ざしたら母親は孤立します。有識者や専門家、教育者でなくて、同じ子育てをしている自分ができることはなんだろうと考えます。子どもに怒る自分を止められない母親、育児放棄をする母親、そこには必ずなにかしらの引き金があると思う。殺すまでに追い込まれた母親に、何が足りなかったのだろうか。「あのお母さんは悪いお母さんだ」と決めつけられたら救われません。子どもと共にお母さんをケアする、そんな風な活動をして行きたいと思っています。

「和」という文字は、一つの稲を皆で囲んで、倒れそうになったら皆で守り育てるという意味があるそうです。独りで見るから倒れる。子どもも同じです。1対1の子育てから起こる悲劇をなくしたい。抑止力は「人」です。罪を与えることだけでは抑止力になりませんから。ですから皆で考えて行きたいと思っています。

小林 昨年度、熊谷市では300件の相談件数があり、具体的な事案は60~70でした。男性の一人親も増えていましてね。本来、地域や家庭が持っていた共助の機能をこれからは公助へと助け、もっと手厚くありたいと思います。

9月定例会は、9月24日(金)から10月15日(金)までの22日間にわたり開かれました。



埼玉・群馬・新潟の三県連携について

上田知事の呼び掛けで、埼玉、群馬、新潟の三県知事が一堂に会した知事会議でどのような意見交換が行われ、どのように連携して課題に取り組んでいるのか。

上田知事答弁要旨

- 埼玉県が位置する首都圏から北東アジアへ広がる日本海までを骨太の連携軸で結び、三県がそれぞれの強みを生かすのが趣旨。新潟県の泉田知事は新潟県中越地震の教訓を踏まえ、日ごろから防災の協力体制を築くことが重要であること。また、群馬県の大澤知事は、国際物流を担う企業も新潟港の将来性に注目。また、電気自動車の普及も率先的に進めるべきという提案もあった。
- 連携を図る共同宣言の4分野は、
- ① 外国人観光客の誘致など新潟空港を活用した「相互観光」を促進する。
 - ② 新潟港の利用を促進し「産業振興策」につなげる。
 - ③ 中越地震の教訓を生かした「防災協力体制」を築く。
 - ④ 電気自動車など「次世代自動車」の普及を図る、以上です。

尖閣諸島問題について

尖閣諸島沖での中国漁船が日本の巡視艇に体当たりした事件は、日本と中国の「17日間の領土戦争」であり、中国の不当な主張に屈した現政権の対応は「平成の敗戦」だと考える。そこで知事に今回の事件を受けての所管をお伺いしたい。

上田知事答弁要旨

わが国の領土であります尖閣諸島に侵入した中国の漁船を拿捕(だほ)、公務の執行を妨害した船長を逮捕した日本の行動は当然のことだと考えている。だが、多くの国民がその後の対応に不信感を持ったのではないかと思う。日本外交の未熟な姿が浮き彫りになり、政府は外交の再構築を図るべきではないかと思う。



若者をはじめとする内向き志向について

日本の若者たちの内向き志向への対策は、県が実施する留学制度のさらなる充実を含め、若い人々を中心とした国際交流に本格的に取り組む必要があると思うが、併せて県職員の仕事への意気込みはどうか。

上田知事答弁要旨

県として海外留学の拡大を始め、若い世代に積極的に海外へ飛び出してもらえるよう民間団体とも連携し積極的に進めて行きたい。また、職員がグローバルな視点で行政課題に対応するには、高い志を持ち、知識や技術を海外でも通用できるようにレベルに近づける。



埼玉県 アメリカ・オハイオ州のフィンレイソン大学

防災ヘリコプター墜落事故と今後について

防災ヘリコプター墜落事故の合同葬に出席し、防災ヘリが真に必要な活動に専念できるように、登山愛好家の方々に注意喚起や防災ヘリの出動条件の周知を行うなど、対策を講じる必要があると強く感じた。また今後のパイロットの訓練等について伺う。

吉野淳一 危機管理防災部長答弁要旨

山岳救助活動ガイドラインを生かし、登山愛好家の方々に、救助の考え方などご理解を求めたい。本県は訓練回数も多く、昨年度は山岳訓練を含め合計で390回の飛行訓練を行ったが、さらに、不測の事態に備えた訓練を増やすなど、訓練体制の一層の充実を図ってまいりたい。



今後の農業政策について

農林水産省の今年度農業農村整備事業費は対前年比36.9%だが、本県農業を支える生産基盤の整備は着実に進めるべきである。農業大学の移転計画はどうなるのか。

西崎 泉 農林部長答弁要旨

生産基盤の整備は、今後とも着実に進めていくべき社会インフラ整備である。また、農業大学校は熊谷市に移転するが大里地域には野菜、米麦、花植木、畜産など県内有数の産地がある。近隣の大学や専門学校、商工会など、さまざまな機関と連携を図り、地域の皆様のお力添えを頂きたい。



埼玉県議会定例会で8つの質問 農業、環境、若者、高齢者施策など！

地元問題について

Q 利根川新橋の早期実現への取組状況について

熊谷市を中心とした北部地域は、利根川を挟み群馬県太田市や館林市などの東毛地域と古くから交流が盛んである。この地域を結ぶのは刀水橋と武蔵大橋は、両橋に交通が集中し朝夕には渋滞が発生する。今後、両地域のさらなる交流発展を考え、利根川新橋の早期実現が必要であると考えているが。

A 成田武志 県土整備部長答弁要旨

両地域の連携機能を強化のため「群馬埼玉地域連携道路網検討会」を設置し、今年度は架橋の位置や橋梁形式の検討を進めている。架橋位置について、地域の道路網計画との整合を図り、効果的な位置を選定する必要がある。選定に当たり河川管理者や占用者との調整が課題となっている。



Q 都市計画道路熊谷西環状線の整備について

環状道路のうち熊谷西環状線は、市街地を通過する国道17号や407号の慢性的な渋滞の緩和になり、その早期整備が望まれているが、都市計画道路熊谷西環状線の進捗よく状況と今後の見通しについて伺いたい。

A 成田武志 県土整備部長答弁要旨

平成21年度に事業に着手し地元説明会を開催。路線測量や地質調査を行ってきた。今後は、用地測量を進め、地元の皆様のご協力をいただきながら、まずは用地買収を推進して行きたい。



土木事業

125号バイパスの4車線化に取り組んでいます！

Q 高齢者への施策について

本格的な高齢化社会に向け、地域の民生委員の活躍が期待されるが、今後、どのように増やし、行政が持つ情報を提供するののか。



Q 高齢者支援のための民生委員制度について

A 武島 裕 福祉部長答弁要旨

本年10月1日現在の民生委員は、定数1万511人のところ163人の欠員です。役割を果たすには、福祉への強い熱意と相当の犠牲的精神が必要です。選任の年齢要件を65歳未満から75歳未満に緩和。職務上知り得た個人情報を守られているが、必要な個人情報は適切に提供するよう指導していききたい。

Q 買い物難民対策について

買い物に困難な高齢者を対象に御用聞き等の注文を受け、宅配する商店に対し、高齢者の安否確認も併せて行い、県として積極的に財政支援をすべきと考える。

A 松岡 進 産業労働部長答弁要旨

高齢者の買物支援、安否確認の協力店の位置付けは、地域支え合いの仕組みを活用する中で検討して行く。

Q 国道125号バイパスの4車線化について

合併した熊谷市が県北地域の中核的な都市としてさらに元気で魅力ある都市になるには、円滑な交通を確保することが必要。国道125号バイパスの4車線化の進捗よく状況と今後の見通しについて伺いたい。



A 成田武志 県土整備部長答弁要旨

国道17号から羽生方面への約2.8km区間は、一昨年度着手し、約1.6kmが開通。残る区間も平成23年度に開通できる予定。また、国道122号から熊谷方面に向かった約1.8km区間も今年度末に開通する予定。さらに、武蔵水路と秩父鉄道をまたぐ行田大橋の4車線化については今年度中に下部工の工事に着手する予定です。

Q 自転車のマナー向上方策について

本県は、自転車保有率が日本一。自転車運転者のマナーも日本一となるよう積極的な取り組みを図るべきと考える。自主防犯活動団体を活用した自転車事故防止対策の推進についても併せて伺いたい。

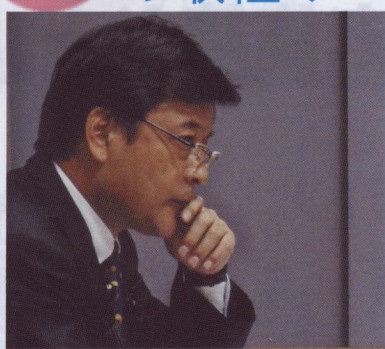


A 横山雅之 警察本部長答弁要旨

昨年度の警告状況は高校生が約14万件、中学生が約9万件と両者で全体の4割強を占める。学校ではスタントマンによる自転車事故再現や、自転車マナーアップ推進校を指定している。県内の自主防犯活動団体は約5千団体、20万人が犯罪の抑止や地域の安全のために活動をしている。

環境農林委員会の役割

環境分野による内需拡大を



環境農林委員会は、委員長(小林哲也)、副委員長と10人の委員で構成されています。審査する分野は、県民生活に直接関わる重要な分野が多いです。

委員の顔ぶれ

浅野 昌彦 委員・南第9区 (民主党・無所属の会)	岡 重夫 委員・東第7区 (民主党・無所属の会)	清水 寿郎 委員・東第8区 (無所属)	江野 幸一 委員・西第14区 (刷新の会)	小森 裕司 副委員長・東第13区 (自 民)
鎌田 昭一 委員・東第15区 (自 民)	石渡 豊 委員・南第13区 (公 明)	松治 邦純 委員・東第9区 (自 民)	長峰 宏秀 委員・西第12区 (自 民)	小島 信昭 委員・南第12区 (自 民)
				渋谷 実貴 委員・西第8区 (自 民)

環境農林委員会の活動

農林部

環境部

- 農林水産物の振興
 - 農林水産物の価格安定及び流通機構の整備について
 - 農林水産物の品質及び安全性の確保について
 - 農林災害対策について
 - 農村の生活環境の整備について
 - 農林水産業関係団体の指導について
 - 試験研究機関の整備について
- 環境保全対策の推進
 - 廃棄物対策
 - 自然の保護および緑化対策
 - 地球環境の保全の推進

農への就業スキルアップ
緊急支援事業の成果は?



【質疑】「農への就業スキルアップ緊急支援事業は研修によりスキルアップを図り、農業生産法人への就職を目指す事業だが、就職した際に役立つ内容か」

【応答】「研修は、大豆の収穫作業や農業用機械の運転技術などOJTと、病害虫の診断や防除対策の講座などを組み合わせて実施し、就職した際に役立つような幅広い知識と技術の習得を目指し、取り組んでいく。また、この事業を実施する農林公社は、就農相談や斡旋業務などの就職支援を通じて、多くの農業生産法人と緊密な関係を築いている。この関係を活かし、就職について働きかけていく」との答弁でした。

消費者の食品選択の充実と
食への安心感のために!

稲の「彩のかがやき」をはじめとする高温被害に対する農家の支援を積極的に行ってまいります。



小林哲也委員長

加工食品原料のトレーサビリティと原料原産地の表示や、全ての遺伝子組み換え食品・飼料及びクロールン家畜由来食品の表示が義務化となりました。また、「食品表示制度の抜本改正を求める意見書(案)」も可決。本委員会から提出することになりました。

当面する行政課題として…農林部・環境部から

農林部からは「埼玉農林業の現状と課題について」、「平成22年産水稲の作柄について」の二つ。

環境部から「埼玉県生活環境保全条例の一部改正骨子案について」、「埼玉県立自然公園条例及び埼玉県自然環境保全条例の一部改正骨子案について」並びに「第7次埼玉県廃棄物処理基本計画(案)」の概要について」の報告があり、種々活発な論議がなされました。



県産農産物サポート店登録店は現在県内に1556店舗あります。

- 北埼玉地域(73店舗):行田周辺の県東部北側地域
- 大里地域(161店舗):熊谷周辺の県北部中央地域



希望を大きく… 地方からの可能性

小林てつや

リーマンショックから未だ景気は改善されず、その悪い経済に拍車をかけるかのように円高が急進しています。この様な状況の中、「子ども手当の約束不履行」「農家の個別所得保障の曖昧さ」「尖閣諸島の中国漁船の巡視艇体当たり事件の優柔不断」「TPPを始めとする諸問題の棚上げ」政治の迷走は益々混乱の度合いを増し、誰の為に政治が行われているのか不透明極まりない様相です。

今、政治の信頼が問われていると考えています。地方政治がどこまで県民の皆様のご要望に応えられるか難しい事だと考えます。

しかし、今こそ地方からの声の可能性を追かけたいと思います。故郷熊谷を愛し、埼玉県を愛し、そこに住む隣人を愛し、何よりも日本を愛せる人を育むと共に、そういった人の希望をより大きなものにする政治が必要と考えています。

子どもにツケをまわさない！

Salon de Tetsuya サロンドてつや

小林てつやは県民の皆様のため に走り続けます!!

信条 子どもにツケをまわさない



東北線・高崎線の東京駅乗り入れ



秋田県、農家の個別所得保証について視察



熊谷市内各地にて



ピンクリボン・デーinくまがや



高校ラグビー選抜大会 森元首相と日本ラグビー協会長



防犯のまち推進議連で



秋田県 環境にやさしい風力発電



参議院選挙の街頭演説



剣道大会にて

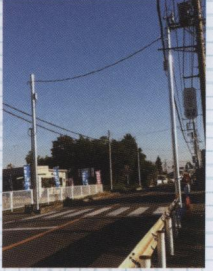


彩の国サイクリングフェスタ

熊谷市内に信号機3基設置

熊谷市内にて事故発生危険場所であり、予てからたくさんのご要望を頂いてました地区に、新たに3つの信号機が設置されます。保育園の送り迎え、子どもたちの通学路等がより安全になります。

- 熊谷市下奈良 奈良保育園入口 (押しボタン) 写真右
- 熊谷市玉井 玉井保育所西
- 熊谷市美土里町 瀬山産婦人科前



少林寺拳法の少年たちと



子育てネットマップづくりを見学



みどりと川の再生埼玉フォーラム嵐山

<http://www.guts-kobayashi.com>

小林てつや 検索

小林てつや 県政調査事務所
TEL 048-530-1211
Eメール tetsuyak@ps.ksky.ne.jp
〒360-0847埼玉県熊谷市籠原南2-18

小林てつや・ご意見募集

fax048-530-1210

埼玉県をもっと素敵にしたい。政治をもっと身近にしたい。こんな思いで熊谷から新しい風を起こすために活動しています。ご意見、ご要望、メッセージをご記入の上、事務所宛にファックスでお送りください。

埼玉県議会議員・自民党

てつやの役職紹介

- ◎常任委員会…環境農林委員会委員長
議会運営委員会委員
- ◎特別委員会…公社事業特別委員会委員
予算特別委員会委員
- ◎埼玉県ラグビーフットボール協会副会長
- ◎熊谷市バドミントン協会会長
- ◎熊谷市ソフトボール協会会長
- ◎熊谷市スキー連盟副会長
- ◎熊谷市リトルシニア会長
- ◎籠原スポーツ少年団顧問
- ◎三尻公民館 青少年部員
- ◎三尻地区青少年健全育成市民会議会長
- ◎保護司

てつやの経歴紹介

- 1959年4月5日生 (51歳)
- ※熊谷生まれ熊谷育ち
- 昭和50年 三尻中学校卒業
- ※やんちゃな中学時代
- 昭和53年 県立本庄高校卒業
- ※まじめな高校時代
- 昭和58年 中央大学経済学部卒業
- ※勉学に励む大学時代
- 昭和58年 岡三証券に勤務
- 昭和61年 (有)小林瓦店 役員
- 平成15年 埼玉県議会議員選挙初当選
- 平成19年 埼玉県議会議員選挙
連続2回当選

*NPO法人日本モンゴル友好協会理事*NPO法人マイスターバンク理事*さくらファンクラブ副会長ほか
・母、妻、子ども(2男1女)の6人家族